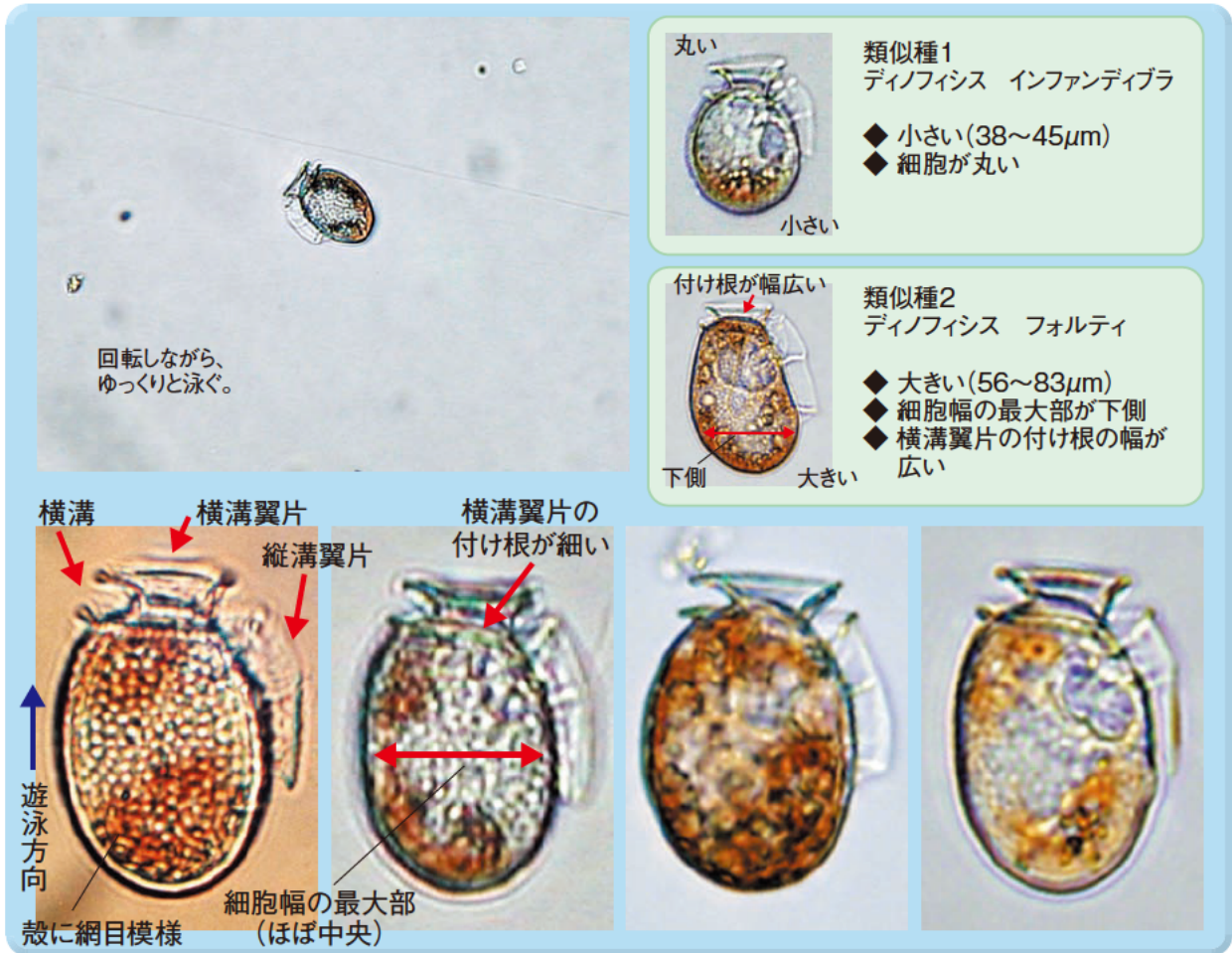


# ディノフィシス アキュミナータ(渦鞭毛藻)

(*Dinophysis acuminata*)



**大きさ** 長さ40～50 $\mu$ m、幅30～40 $\mu$ m

**形態** 色は赤褐色。側面から見ると楕円形で、左右に扁平である。細胞の前端に横溝がある。魚のヒレのような翼片(よくへん)をもつ。殻は厚く、表面に網目模様がある。類似種のディノフィシス インファンディブラ(*Dinophysis infundibula*)とは、細胞のサイズと形で、ディノフィシス フォルティ(*Dinophysis fortii*)とは、細胞のサイズ、側面から見た細胞幅の最大部の位置、横溝翼片(よこみぞよくへん)の付け根の幅などで区別できる。

**動き** 回転しながら、ゆっくりと泳ぐ。

**漁業への影響**：下痢性貝毒を産生し、二枚貝を毒化させる。伊勢湾で発生する本種の毒成分は、OA、DTX1、PTX2などが主体であることが確認されている。このうちOAとDTX1は下痢を引き起こす成分であるため注意が必要である。マウス試験で二枚貝の毒量が基準値(0.05MU/g)を超えると出荷自主規制措置が講じられるが、伊勢湾で発生する本種では、細胞密度が1細胞/ml以上になると、ムラサキガイの毒量が基準値(0.05MU/g)を超える危険性があることが明らかにされている。

**漁業被害**：平成14年5月に鳥羽市のムラサキガイが毒化し、出荷自主規制措置が講じられたが、この時の毒化原因種は本種であると考えられている。

**発生海域**：伊勢湾～熊野灘沿岸

**発生時期**：4～7月頃